



なかた ごうのすけ
中田 豪之助 議員

下川学会のような地元学を再開する考えはあるか

町長 機運を町としてもサポートしながら推進したい

ふるさと交流館について

質問

昔、下川学会というものが、あり、ときどき参加しました。下川町の歴史や、こんな活動をしている人がいるなど、勉強になりました。移住して短期間に知り合いが増えるのはとても心強いことでした。

最近、移住やお試し移住の人が増えているので、下川学会の活動があれば大変プラスになります。

地域おこし協力隊のような、3年間はある人を募集し、NPO下川学会なり、財団法人下川学会なりを設立して管理運営する、その拠点にふるさと交流館は最適です。

このような活動はSDGsの理念に合致し、そういう活動をしている町だからこそ移住者も誇りを持って下川に住み続けられると考えます。

町長 2003年当時、全国的に地元学がブームで、町職員などと議論を重ねて、下川でも地域の様々な資源を探し、付加価値をつけていく、

そういう機運が盛り上がり2003年に地元学の一つとして下川学会を立ち上げました。初代は私が代表し、数年来運営を任されていました。SDGsの話のように、まさしく地域の様々なポテンシャルを引き出す上では、SDGsと地域学会は非常に類似しているところはあると、私も感じています。

今後は、その名前をそのまま使うだけではなく、違う団体がそのような活動を展開していただける、そういう機運を町としても少しサポートしながら推進をしていきたいと考えます。

教育課長 下川学会といったような団体が育っていった場合には、そういったところで利用されるのも一つの考えだと思います。

再質問 ふるさと交流館を拠点として、下川学会という名称にこだわらず、より発展的なものに進める。その第一歩として、役場のOB、郷土の歴史に詳しい方、ボランティアを募って、ふるさと交流館

サポーターズのようなものを組織し、もつとSDGsに貢献、郷土の誇りと歴史と地域資源を研究して、それを町民でみんなに共有していくと、きっかけになると思うんですが、見解を伺います。

町長 先ほども答弁しましたが、行政が先導してやるのがいいという問題もあります。そういう機運を高めることはできるのではないかと考えております。

上名寄16線大排水について

質問

令 和3年10月の短時間での大排水で、上名寄16線の大排水が氾濫しました。根本的改修が必要ではないでしょうか。

町長 根本的な解決に向けての改修は非常に難しいと考えています。

再質問 今回の大雨以後、水路内の土砂上げなどの活動は行いましたか。また、今後そのような管理、メンテナンスを行う計画はありますか。

町長 大排水は、延長が長いので、次年度以降、計画的に水路内の滞留土砂の掘削や、部分的な改修を実施、その経過を観察し、できるだけ被害が及ばないように対応をしていきます。

農林業担い手・移住定住政策について

質問

最近、本町で就農を希望する人が増えているそうです。今の希望者に、その志望動機を詳しく聞き取り調査して、今後の政策にいかすべきです。

町長 相談受付の際には志望動機の聞き取りを進めています。

再質問 農業だけでなく、事務職や林業、工業など、下川に移住した人、転出する人に、その理由、動機を聞き取って、今後の政策にいかすべきです。
町長 タウンプロモーション推進部では、役場総合窓口と連携して、転入・転出手続きをされる方に対する任意のアンケート調査を実施しています。